



令和4年度愛媛県海洋ごみ調査事業の結果について

令和4年度に県が実施した海洋ごみ調査（3調査）の結果を、次のとおりお知らせします。

《調査結果のポイント》

- 1 立入困難地域における漂着ごみ現状把握調査事業（令和3年度から実施）**
 - (1) 調査方法** 中予地域（松山市、伊予市、松前町）と今治市の立入困難地域（陸側からの立入が困難な地域）において、上陸又は海上から目視により現状把握
 - (2) 調査結果**
 - 中予地域で確認した漂着ごみの堆積箇所は94か所、軽トラック555台相当。
 - 今治市で確認した漂着ごみの堆積箇所は84か所、軽トラック385台相当。
 - ※令和3年度に調査した南予地域で結果は、563か所、軽トラック約32,000台相当。
 - ※今治市以外の東予地域は、令和5年度に調査を実施。
- 2 海岸漂着ごみエリア実態調査・分析事業（令和4年度に実施）**
 - (1) 調査方法** 県内全ての海岸線約1,700kmを航空写真により調査
 - ※航空機による全県対象の分布状況調査としては全国初
 - (2) 調査結果**
 - 海岸線約1,700kmの漂着ごみの分布状況を、航空写真約4,650枚を分析して把握し、海岸線を5ランクに分類。
 - ※東予・中予に比べ、南予に漂着ごみの多い海岸が多い。
 - ※5ランクの分類に用いた漂着ごみの量は、航空機から確認された範囲のものであり、後背地の植生に隠れたもの等は含まない。
- 3 海洋プラスチックごみ実態把握調査事業（令和2年度から実施）**
 - (1) 調査方法** 漂着ごみ4地点（今治市、伊予市、伊方町、愛南町）、漂流ごみ4地点（安芸灘、燧灘、伊予灘、宇和海）で調査。マイクロプラスチックについても、あわせて調査。
 - (2) 漂着ごみ調査結果**
 - [ア 漂着ごみの量]**
 - 個数は、全ての地点で「プラスチック」が最も多い。
 - 東・中予と比べ、南予が2.5倍程度多い。
 - [イ プラスチックの種類]**
 - 個数では、全ての地点で「海域由来」の割合が最も高い。
 - 容積では、「海域由来」のほか、「容器包装」（ペットボトルや食品容器等）、「その他」（硬質プラスチックの破片等）の割合が高い。
 - (3) 漂流ごみ調査結果**
 - 人工ごみの個数は宇和海中部が最も多い。
 - (4) マイクロプラスチック調査結果**
 - 沿岸部での調査では、宇和海中部が最も多く、他の3地点の平均の4倍に上る。